

# あれこれ仏教用語

世間（せけん）

「渡る世間に鬼はなし」

「世間は広いようで狭い」

「世間知らず」

「世間の口に戸は立てられぬ」

「世間体を気にする」

世間を使った言葉はたくさんあります。

仏教では、山、川などの国土としての世間（器世間）と、そこに住む生命のあるものとしての世間（衆生世間、有情世間）を二種世間といい、さらに、これらを構成する五蘊世間（ごうんせけん）を加えて三種世間と呼んでいます。

このような世間は、俗世間のことをさしますが、そこを超越した仏さまの世間を出世間（しゅっせけん）と言います。世に

出て立派な地位や身分になることを「出世」といいますが、この出世は出世間を略した言葉です。

## 雑記く浄土宗の法難の歴史く

鎌倉時代に法然上人によって開かれた浄土宗。今となっては八百年以上の歴史がある宗教ですが、その当時の人々にとっては、歴史のない新しい宗教でした。それゆえに、様々な弾圧が幾度となく、法然上人やその弟子たちの身に降りかかってきました。

先に書きました往蓮・安樂上人の「建永の法難」。そして、もう一つの大きな法難として、嘉禄三年（一二二七）、法然上人滅後十五年に、比叡山との衝突があり、叡山の山徒たちが法

然上人の亡骸を納めている廟を破壊しようとする事件が起きました。これを防ごうと、法然上人の弟子たちは上人の亡骸を嵯峨二尊院に移し、さらに太秦に隠し、その後、粟生の光明寺にて荼毘にふしました。この事件を「嘉禄の法難」といいます。

様々な法難を乗り越え、命を懸けて守り伝えた弟子たち、また信仰した人々のお陰で、八百年以上たった現在も、脈々と法然上人のお念仏の教えが根付いています。

平成二十一年六月一日発行

じょうどしゅうせいざんせんりんじは

浄土宗 西山禅林寺派

常林院

# 月影



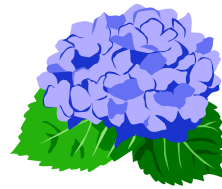
第 29 号

今はただ

云う言の葉も なかりけり

南無阿弥陀仏の

み名のほかには



安樂上人 辞世の句

## 鹿ヶ谷の悲劇

鹿ヶ谷に往蓮山安樂寺というお寺があります。

法然上人の弟子の往蓮上人と安樂上人が「鹿ヶ谷草庵」を結んだことがこの寺の始まりです。

両上人が勤める読経・声明はまことに美しく、参詣者の中には出家して仏門に入る者もありました。

その中に、後鳥羽上皇に女官として仕えていた松虫姫と鈴虫姫の姉妹がいました。ある日、後鳥羽上皇が熊野に参詣の留守中、夜中に御所を忍び出て、両上人の所へ行き剃髪出家して尼僧となりました。

この事を知った後鳥羽上皇は激怒し、両姫を出家

させた往蓮上人を近江八幡において斬首に処し、安樂上人も京都六条河原において斬首に処しました。

この事件は建永二年（一二〇七）に起きたので、「建永の法難（ほうなん）」と呼んでいます。

両上人が詠んだ辞世の句が残っています。

今はただ 云う言の葉もなかりけり

南無阿弥陀仏の み名のほかには

安樂上人

極楽に 生まれむことの うれしさに

身をば佛に まかすなりけり

往蓮上人

そして弟子の罪は師匠の罪として、法然上人を七十五歳の高齡にもかかわらず讃岐（香川県）に流罪としました。また、後に浄土真宗の祖となる親鸞聖人は越後（新潟県）へ流罪に処しました。

四年後、流罪地から帰京した法然上人は、両上人の菩提を弔う為に草庵を復興し、

「往蓮山安樂寺」と名づけました。

寺宝には松虫鈴虫姫の剃髪図の掛軸がそれぞれあります。合掌してうつむく両姫のまなざしは、出家しようとする強い覚悟が伝わってきます。



往蓮山安樂寺

# お経の話 何が書いてあるの？

じょうどしゅうせいぎんごんぎょうしき  
浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

## 肆誓偈 (五)

くよういつさいぶつ ぐそくしゅうとくほん

供養一切仏 具足衆徳本

がんねしつじょうまん とくいさんがいお

願慧悉成満 得為三界雄

によぶつむげち つうだつみ ふしよう

如仏無碍智 通達靡不照

がんがくえりき どうしさいししょうそん

願我功慧力 等此最勝尊

しがんにやくこくか だいせんおうかんどう

斯願若剋果 大千忞感動

こくうしよてんにん どううちんみようけ

虚空諸天人 当雨珍妙華

三界雄・三界とは、

欲界 (欲が多い人間界)

色界 (天上界。ここに住む天人は姿が

美しく色界という)

無色界 (身体がなく、ただ心だけが住

んでいるので無色界という)

これら三界の支配者を三界雄という。

(訳) すべての仏を供養し、多くの功德を具え、誓

願と智慧をすべて満たし、全世界で最もすぐれた

存在になられました。何ものにもさえぎられるこ

とのない仏の智慧というものは、どこまでもいき

わたり、照らし出さないところはありません。

どうか私も、功德を積んで、そのように最も勝れ

た仏と等しくなれますように。

この願いが達成されたあかつきには、全宇宙が揺

れ動いて感じ入るに違いありません。

虚空にいる天界の神々は、美しく見事な華を雨の

ように降らすことでしょう。

天界という所はどんな所なのでしょうか。

天界は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道に

ある「天」のことです。この天界には様々な階級の

天人が住んでおり、人間よりも長寿だそうです。

天人の寿命というのは、下天の天人で五百歳。た

だし、天界の一日は五十年に相当するので、人間世

界だと九百万年の寿命となります。また、この上の

階級の天界に住んでいる天人は三千六百万年の寿命

を与えられているそうです。このように非常な長寿

を約束されている世界が天界という世界なのです。

## 授戒会無事に終わる



授戒会を終えて  
(永観堂大殿前にて)

五月二日から五日間。総本山永観堂において、授戒会が厳修されました。

本山で授戒会が行われるのは十四年ぶりのことです。全国から約三百七十名の参加者があり、常林院からは十七名参加されました。

五日間、お説教と読経、一日百回以上の礼拝を繰り返して、昼食以外は休憩がない過密な日程でしたが、全員無事に小木曾

管長から仏教徒としての戒を授かり、血脈を授かりました。

お待ち受け法要（姫路但馬）



姫路大覚寺にて回向される小木曾管長

先月、四月十日から三日間。姫路・但馬の五ヶ寺でお待ち受け法要がありました。小木曾管長と共に、法事部・説教師など約二十名で法要を行い、私も司会として参加しました。

全国百力寺を回るお待ち受け法要も半分を過ぎ、二年後の大遠忌に向け、折り返し地点を通過しました。

御忌会（ぎよきえ）

今年も、四月二十二日から四日間、総本山永観堂において、御忌会（ぎよきえ）が厳修されました。

御忌会とは、法然上人の御命日の法要です。本来は一月二十五日が御命日なのですが、気候の良い四月に行っています。

大殿の屋根瓦の葺き替えも終わり、また、大殿内の照明もLEDに変わったことで、とても明るい中で法要が行われました。



御忌会（大殿にて）